

ヨコハマ市民まち普請事業

第二次提案書

- 注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。
- 注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。
- 注3) 添付資料は計画図(位置図・平面図・完成予想図各A3判1ページ、その他必要に応じて配置図・断面図・立面図等)、想定整備費用内訳書(第3号様式)、協議・説明状況報告書(第4-1～3号様式)、土地・建物使用承諾書(第5号様式)、一次コンテスト以降の活動内容(任意様式A4判1ページ)、その他資料(必要に応じてA3判2ページまで)

提案グループ名 (25字以内)	横浜金澤アーバンアグリカルチャー・デザインセンター		
整備場所 (町名又は丁目まで記入)	金沢区釜利谷東8丁目		
提案名 (25字以内)	農×教育×観光による循環型社会的観光農業プラン		
助成金申請予定額	500万円		
整備する施設 (具体的な整備内容 ^{※1} を工夫した点 ^{※2} にも触れて記入してください) ※1施設の全体像とともに整備助成金の対象箇所を明記してください ※2住民等が持つ発想、方法などを生かしたアイデアやユニークさ及びデザインへの配慮	整備計画案については、関東学院大学人間共生学部共生デザイン学科より16案提案してもらい、1次評議会により5案を選定し、本提案企画参加者で構成される審査会にて最終案を採用しており、ビニールハウスは、釜利谷トマトを栽培し、農業振興を目的とした栽培体験、収穫体験、野外食育などの体験プログラムを実施します。また、遊休農地は、水光熱設備がないため、電気設備、バイオトイレのインフラを整備します。そして、ビニールハウスに付帯し、パーゴラを設置し、その下に井戸を整備します。また、キッチンカウンターでは、収穫した野菜や食べ物を調理できるようにしています。施工は、関東学院大学人間共生学部の学生が中心となって、周辺地区の工務店の指導のもと、セルフビルドします。(神奈川県産木材使用) ※デザインについては、「その他資料」参照 敷地面積:1,208㎡(登記簿)		
	項目	工事内容	詳細※すべて補助対象工事
	建築工事	ほ場	ビニールハウス(5.4m×13m)
		付帯施設	パーゴラ、ウッドデッキ(受付、キッチンカウンター、物置、造作家具)
	電気設備工事	引き込み工事	
	給排水設備工事	井戸	キッチンカウンター横に設置
	衛生設備工事	バイオトイレ	
	その他工事	看銘板、セキュリティ、インターネット設備	
	田んぼ	DIYワークショップ	※補助対象外
堆肥昆虫研究場	DIYワークショップ	※補助対象外	
施設の活用・活動内容 (具体的な活動内容を工夫した点にも触れて記入してください)	整備地全体を活用し、地域の多様な関係者と共創しながら、地域への誇りと愛着を醸成する地域観光や農業による地域づくりを目指します。整備する横浜金澤アーバンアグリカルチャー・デザインセンターは、地域に開かれた公共空間として活用します。※具体的なイベント詳細は、「その他資料」参照 1. 地域産品づくりによる観光まちづくり (1) 地域産品「八景八味」や「復活釜利谷トマトジュース」による地域おこし 市民参加型による栽培体験、収穫体験、食育体験を実施、新しい地域に愛された金沢ブランド商品を製品化し、神奈川新聞やタウンニュースの企画・媒体やSNS		

	<p>等で地域をPRします。</p> <p>(2)まちづくりを語り合える「機会と場」の提供 年間を通して、地域住民や地域企業が主体となったまちづくりやイベント、そして街の未来について語り合える「機会と場」を提供し、各種のまちづくり事業等の企画・運営を実施します。</p> <p>2. 市民参加型による広域連携まちづくり (1)地域をつなぐ「食のエンターテイメント」 フードロス削減をテーマにした「サルベージパーティー」や地域のコミュニティファームとして体験プログラムとあわせて、「ラグジュアリーバーベキューパーティー」等を開催します。</p> <p>(2)三浦半島広域連携によるサーキュラーエコノミーの推進 三浦半島地域活性化協議会や金沢八景まちづくり委員会等と連携し、新しく製品化した地域産品や収穫した野菜等を中心にマルシェの開催や販売活動を行い、循環型経済を構築します。</p> <p>3. 産官学連携による地方創生まちづくり (1)アマモの利活用による環境教育 神奈川県、横浜市、地域の小学校や市民グループと連携し、海の公園で処分されるアマモ等を活用し、農業研究活動、堆肥研究、昆虫飼育研究を実施し、子ども達の自分づくり教育を支援します。</p> <p>(2)関係人口創出による地域おこし 秋田県湯沢市などの地域企業や地方自治体と連携し、金沢区の魅力づくりを検討するフューチャーセッションを開催し、食や文化交流を行い、関係人口の増加を促進します。</p>
<p>提案の背景 (なぜ提案をするのか、地域のニーズや課題、生かしたい地域の魅力等に触れて説明してください)</p>	<p>人口減少社会を迎え、生産年齢人口の減少に伴い、地域活動の担い手不足、家業の担い手不足が課題となっており、こうした困難な課題を解決するには、地域が地域の手で地域価値を高める地域づくりが求められています。持続可能な循環型社会を構築するために、高齢者や福祉を主体とするのではなく、未来に向けた子どもや教育を中心と考えた提案としました。そのため、大自然がある遊休農地を活用して、地域がかかわり、地域企業が主体となって、子どもが誇れる地域の構築、将来地域で働く場を創造してもらうためのトレーサビリティや、整備地域周辺だけでなく、広域連携による地域づくりを重要視した実施内容としました。また、休憩場の屋根づくりや地域産品づくりなどのプロセスに子どもに関わってもらうことにより地域観光としてPRします。</p>
<p>整備プロセス</p>	<p>遣り方工事、塗装工事、井戸工事は、関東学院大学人間共生学部の学生が中心となって、セルフビルドするため、工賃を抑えています。</p> <p>パーゴラは、可動式オーニングとし、一年に1度か2度子どもたちに協力してもらい、不要になった布(オーガンジーやシフォン)などの透け感のある布にアクリル絵の具や無印良品の布描きクレヨンで布に絵を描いてもらいます。</p> <p>また、田んぼや堆肥昆虫研究場は、SDGs横浜金澤リビングラボメンバーによる企画では場整備します。</p>
<p>維持管理・運営計画及びその実施方法</p>	<p>主に、日常管理は、別紙「その他資料」に記載の運営規約に準じて遊休農地の所有者である永島氏と釜利谷小学校が行います。</p> <p>管理運営費は、市民参加型イベント参加費や金澤八味及び復活釜利谷トマトジュースを三浦半島全域における青空市場等で販売して得た収益により捻出します。</p> <p>イベント企画・実施については、別紙「その他資料」を軸に関係者と連携し、さらにサーキュラーエコノミーplusをテーマに定期的にフューチャーセッションを開催し、イベント主催者や参加者を増やしていく予定です。</p>

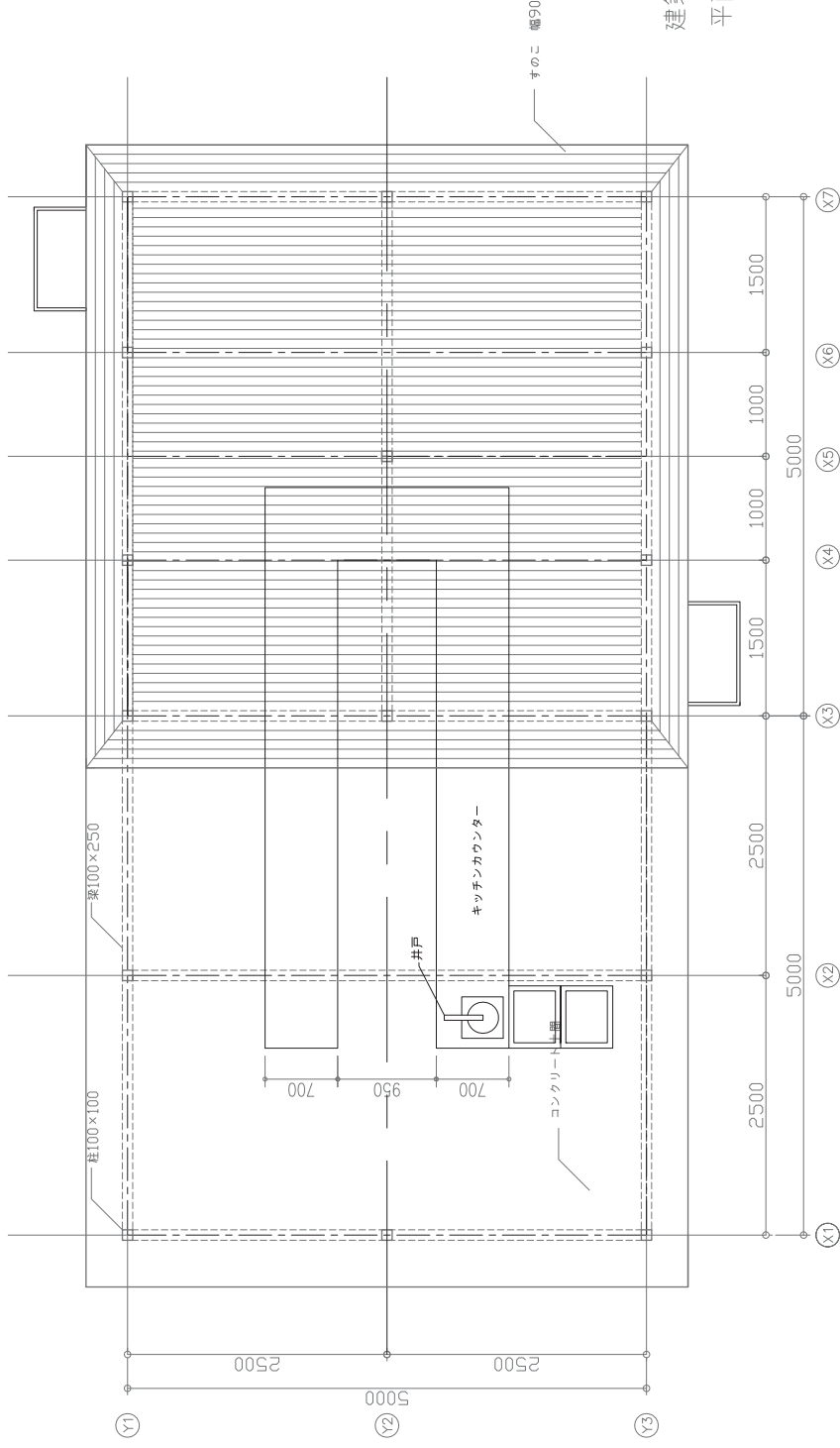
注4)「地域資源」とは、次のようなものを想定しています。

- | | | |
|---------|-------------------------|-----------------------|
| ○「ヒト」の例 | ・地域のPTAから協力を受けられそう。 | ・地域に設計の専門家がいます。 |
| ○「モノ」の例 | ・整備に必要な材料を安く入手できそう。 | ・整備に必要な建設機械を安く借りられそう。 |
| ○「カネ」の例 | ・自治会町内会から資金的な支援を受けられそう。 | ・バザーなどで資金を集められそう。 |

<p>一次コンテスト以降の活動内容 ※詳細については添付資料（任意様式）に記入してください</p>	<p>主に地域産品づくりにおける学校連携や地域企業連携を行い、子どもによる試作販売まで行いました。また、提案企画内容のPRのため、フォーラム登壇や地域企業とのイベント連携開催を実施しています。さらに整備計画案の選定を実施しました。</p>
<p>関係者の合意・調整状況 （地域《地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等》での合意形成や関係機関との調整結果の概要について説明してください）</p>	<p>整備地周辺は、農地と山林のため住宅はなく、隣接地所有者（農地、駐車場、倉庫）に近隣説明を行い、整備地所有者と交友関係にあるため、快諾していただいています。 なお、二次コンテストまでに以下実施する予定です。 自治会町内会説明は、金沢区区政推進課と協議しながら、進めており、今後連合会長への説明を行い、整備地の町内会長へ説明を行う予定です。 また、整備計画案については、横浜市農政推進課および建築指導課と協議します。</p>
<p>その他提案について特にPRしたい点を記入してください</p>	<p>本提案において、金沢区の海の公園で処分されるアマモの利活用の検討について、地域、各団体、行政が連携することとなり、(仮称)アマモ活用研究協定を締結する予定です。地域課題や行政課題の解決に貢献する企画となっています。地元で愛された新しい金沢区の地域産品ができることにより、観光経済の活性化に寄与します。さらに地域活性の枠を自治活動区域で捉えるのではなく、広域連携することで街全体の活性化を推進します。</p>
<p>目指す地域の将来像 （施設が整備されることにより地域がどのように良くなるのか、地域に及ぼすインパクトについて説明してください）</p>	<p>サーキュラーエコノミー（循環経済）は、「従来廃棄されていた製品、活用されていなかったものを「資源」と捉え、有効に活用し、またその寿命の延伸を図ることで、それらの価値を目減りさせずに永続的に再生・再利用し続けることで環境にも経済にも持続可能性を持たせる新しい経済活動」と定義されています。本企画は、資源や製品に限らず、「ひと」と「まち」の持続可能性とエンパワメントにも着目し、それらを総合的にプロモーションする社会経済モデルを「サーキュラーエコノミーplus（横浜型循環経済）」として提唱、推進することで、「誰一人として取り残さない持続可能な未来」の実現を目指しています。</p> <p>① 「ローカル・フォー・ローカル」 横浜では地域における資源の循環のみならず、食や再生可能なエネルギーの地産地消によるコミュニティ経済の確立を目指す。</p> <p>② 「サステナブルデベロップメント」 空き家や有休農地の活用を軸に無駄を富に変えるシェアリングエコノミーを実践的に広げて行くと共に、気候変動によって災害が頻発化・甚大化する時代のインクルーシブな街のデザインのあり方を考える。</p> <p>③ 「パラレルキャリア」 学校や会社に囚われない、依存しない学び方、働き方の実践的なモデルと仕組みを地域での新しい学びの場づくりや兼業・複業などの取組から生み出していく。</p> <p>④ 「ヘルスプロモーション」 超高齢・人口減少社会において、誰もがその個性や能力に応じて生涯活躍し続けるための心と身体、そしてコミュニティのあり方を探る。</p>

記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。



建築面積：67.8㎡
 平面図 S=1:50



可動式オーニング



ワークショップ形式にして、
 一年に1度か2度子供たちに協力してもらい、
 オーガンジーやシフォンなどの透け感のある布に
 アクリル絵の具や無印良品の布描きクレヨンで
 布に絵を描いてもらう。

布(屋根)がいらないと感じたときは
 簡単にしまえるように可動式オーニングに。

食べるのにも調理するのにも
 便利な大きさの机



水田や畑で汚れた
 足を洗う場所
 椅子を置いたり、
 自由に使えるスペース

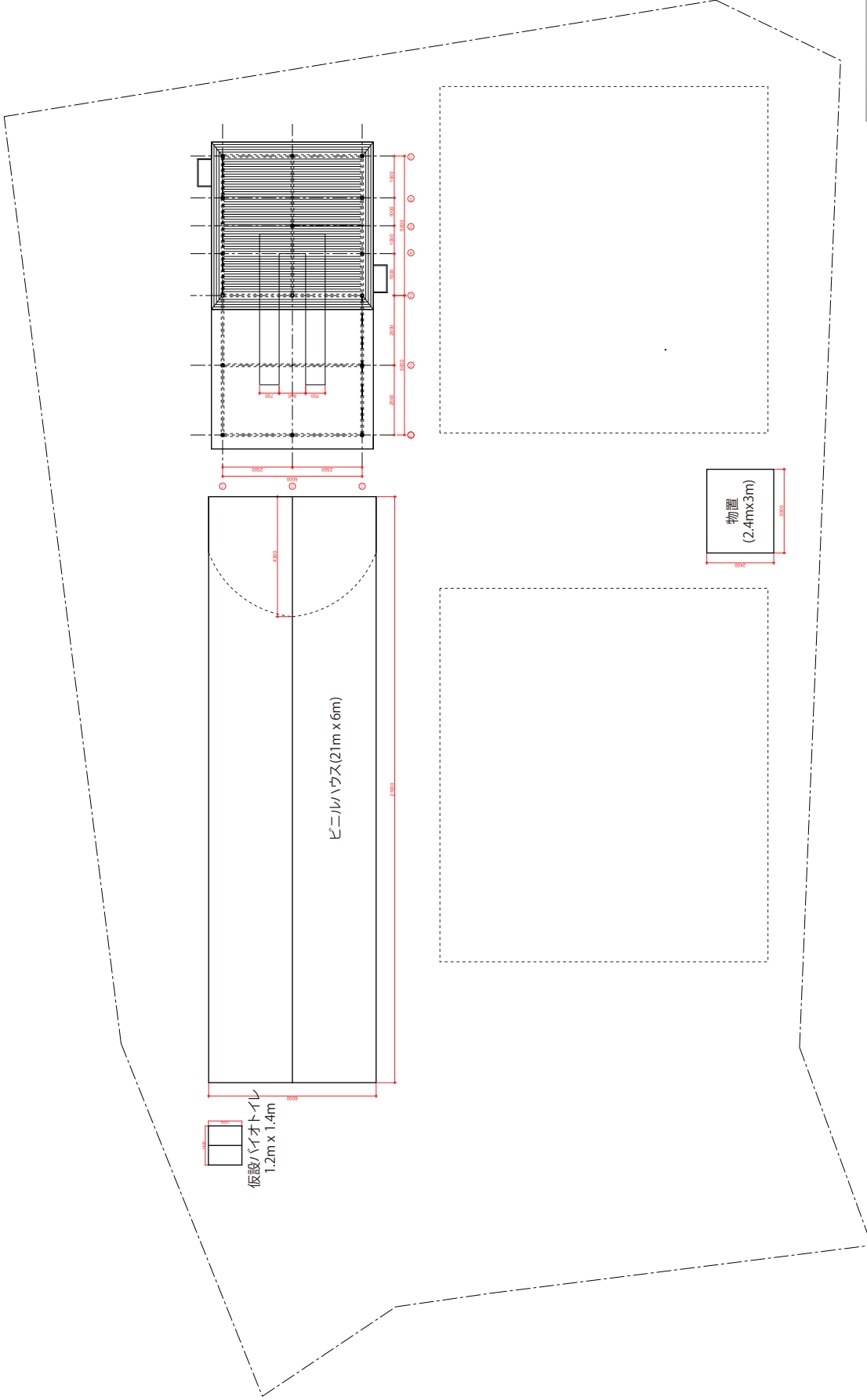
畑の近くに井戸があることで
 収穫した野菜をすぐに洗える。



永島農園 平面図 S=1:50

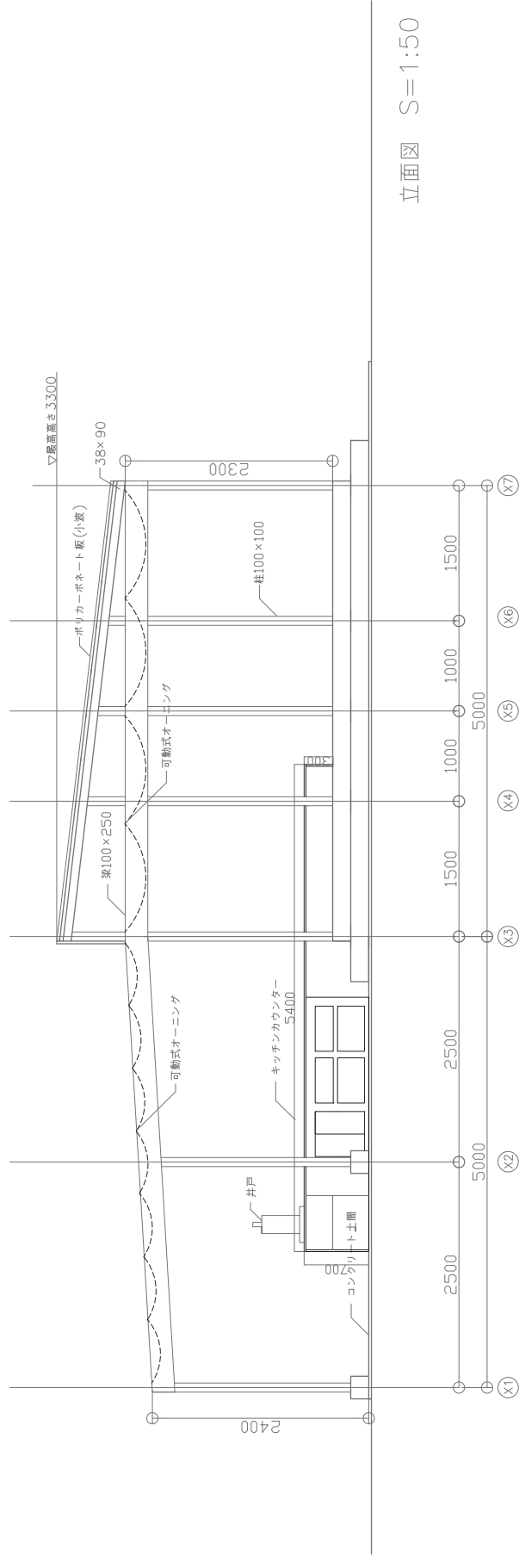
20600

22100



配置図兼平面図 1:150

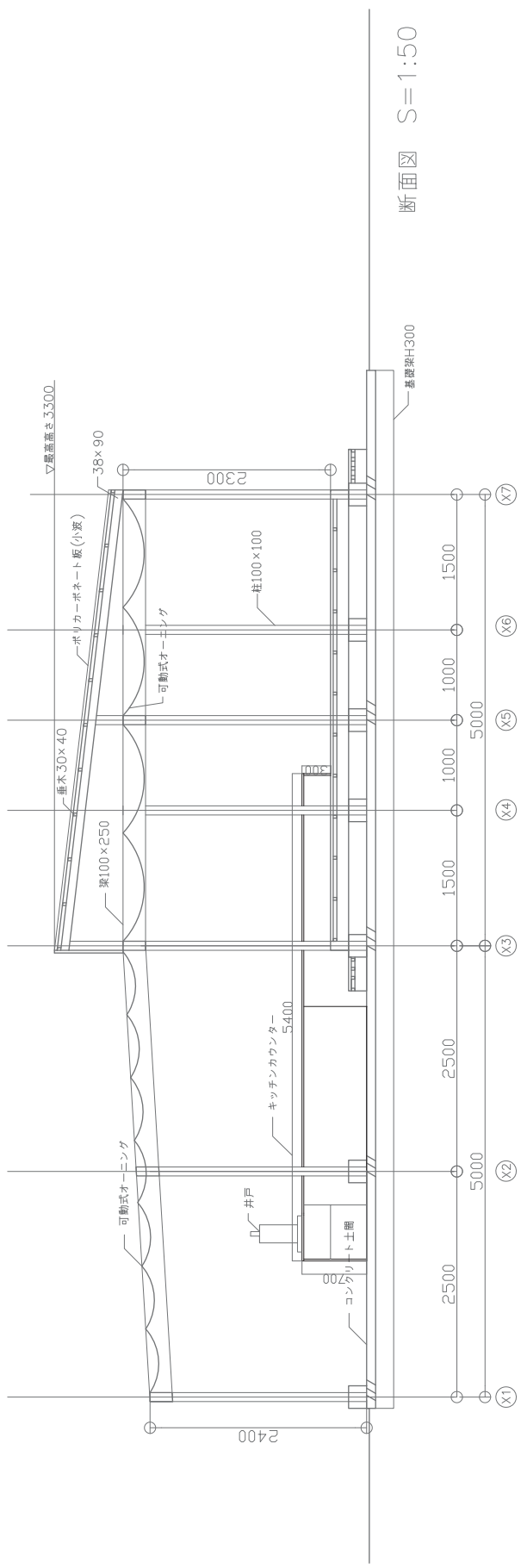




立面図 S=1:50



ビニールハウスと近づけることで
 急な雨も少しはしのげる。
 可動式オーニングなのでもう少し
 ビニールハウスとの距離を近づけても◎



断面図 S=1:50

屋根に透明な板を使うことで雨を遮ってくれる。
 片流れにすることで水も溜まらずに流れる。
 (カーポートに使われるポリカーボネート板であれば
 少し曇って見えるが熱も遮ってくれる)

屋根部分に使う布にはオーガージーやシフォンなどの
 透け感のある布で目の粗い布を使用、
 強い光を遮るが暖かさは感じる。



周りから、どこからでもいれるように
 柱は必要最低限

ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加（費用又は労力の負担等）
ビニールハウス	(5.4m×13m)	1棟	1,400,000円	1,400,000円	
付帯施設仮設工事	仮設足場リース	3か月	20,000円	60,000円	学生DIY
	配送料	2回	20,000円	40,000円	
付帯施設遣り方工事	杉資材	1式	30,000円	30,000円	
	工賃	1人工	20,000円	20,000円	
付帯施設コンクリート基礎工事	型枠/配筋工事	10人工	45,000円	450,000円	材工共
	打設工事	10人工	50,000円	500,000円	
付帯施設材料費	土台、柱、梁、屋根、家具、サイン	1式	500,000円	500,000円	学生DIY
	基礎パッキン、アンカーボルト、ビス等	1式	200,000円	200,000円	
付帯施設塗装工事	塗料、刷毛、ローラー等材料	1式	100,000円	100,000円	学生DIY
井戸工事	作井工事	10人工	24,000円	240,000円	材工共 一部学生DIY
	手押しポンプ	1台	60,000円	60,000円	
電気工事	電気引き込み工事、照明設置工事	10人工	20,000円	200,000円	
仮設バイオトイレ		1台	400,000円	400,000円	
設計・監理費	安全指導費	32人工	25,000円	800,000円	
合 計				5,000,000円	

一次コンテスト以降の活動内容(横浜金澤アーバンアグリカルチャー・デザインセンター)

日付	活動内容/概要	場所	備考
2019.07.17	瀬ヶ崎小学校環境教育	瀬ヶ崎小学校	しいたけ、食の生産に関する授業実施
2019.07.17	日本テレビ「news every」@永島農園		企画内容 PR
2019.07.18	タウンニュース金沢区・磯子区版掲載		企画内容 PR
2019.07.18	しそ、とうがらし植え付け	瀬ヶ崎小学校	夏休み期間:水やり、草むしり
2019.07.19	西柴小学校打合せ		学校連携協議
2019.07.19	金沢八景まちづくり委員会定例会議		金沢区広域連携協議
2019.08.04	2019 横浜あおみかん摘果体験	柴シーサイドファーム	七味とうがらし素材づくり
2019.08.04	第 5 回アイデアソン	永島農園	地域参加による交流会実施
2019.08.05	収穫体験	瀬ヶ崎小学校	七味とうがらし素材づくり(永島農園に搬入・乾燥)
2019.08.06	復活説明会	TRVEL HUB MIX	参加者募集
2019.08.06	朝日新聞打合せ		企画内容 PR
2019.08.15	朝日新聞掲載		摘果体験、プロジェクト概要
2019.08.16	釜利谷小学校打合せ		学校連携協議
2019.08.24	第 2 回花火船セッション	弁天屋	地域振興イベント実施
2019.08.26	西柴小学校打合せ		学校連携協議
2019.08.27	第 3 回フューチャーセッション	八景市場	活動報告、今後の進め方協議
2019.09.05	収穫・環境教育、キャリア教育	瀬ヶ崎小学校	事業収支等の検討
2019.09.07	ヨコハマ市民まち普請事業 活動懇親会	富士通エフサス	
2019.09.09	大型台風による農園被害		
2019.09.10	湯沢市意見交換	八景市場、光栄堂薬局	
2019.09.12	チェックイン講座	TKP 横浜駅西口	パラレルキャリア 26 名参加
2019.09.24	遊休農地の整備計画案協議	関東学院大学	
2019.09.25	食育活動	西柴小学校	
2019.09.27	現地調査	遊休農地(永島農園)	整備計画案にかかる現地調査および測量調査
2019.09.27	金沢八景まちづくり委員会定例会議		金沢区広域連携協議
2019.09.28	第 4 回フューチャーセッション	関東学院大学	企画連携会議
2019.10.10	総合的な学習の時間	西柴小学校	「金澤八味」レシピ検討
2019.10.11	総合的な学習の時間	瀬ヶ崎小学校	「金澤八味」ラベル検討
2019.10.18	金沢八景まちづくり委員会定例会議		金沢区広域連携協議
2019.10.26	第 5 回フューチャーセッション	八景市場	設計協議および企画会議
2019.10.26	ヨコハマ市民まち普請事業審査委員現地視察	永島農園	
2019.11.02	第 6 回リビングラボ	柴シーサイドファーム	七味とうがらし素材づくり(みかん狩り及び七味ワークショップ)
2019.11.05	整備計画案 1 次評議会	関東学院大学	整備計画案 16 案→5 案選定
2019.11.05	近隣説明		
2019.11.10	三浦半島まるかじり“mi 食祭”	横須賀市本町コミュ ニティセンター	三浦半島地域活性化協議会連携
2019.11.10	金沢八景まつり	八景シーサイドひろば	
2019.11.14	総合的な学習の時間	瀬ヶ崎小学校	「金澤八味」ワークショッププレクチャー
2019.11.15	記者発表「金澤八味」試作販売		瀬ヶ崎小学校による試作販売記者発表
2019.11.22	官民データ活用時代における共創推進フォーラム	京セラみなとみらい RC	総務省および横浜市連携
2019.11.23	金沢ブランド展示会	金沢地区センター	横浜金沢観光協会、瀬ヶ崎小学校による「金澤八味」試作販売
2019.11.28	金沢八景まちづくり委員会定例会議		金沢区広域連携協議
2019.11.28	金沢区政推進課/環境創造局打ち合わせ	金沢区役所	行政協議
2019.11.29	第 6 回フューチャーセッション	関東学院大学	整備計画案コンペティション 5 案→審査会最終案決定
2019.11.30	日立かながわ子どもサミット	日立製作所	本企画で瀬ヶ崎小学校が最優秀賞受賞
2019.12.01	ヨコハマ市民まち普請事業 提案書完成		
2019.12.05	横浜市農政推進課協議		行政協議
2019.12.06	ヨコハマ市民まち普請事業 提案書提出		
2019.12.15	金沢の食でサルベージパーティー	八景市場	フードロス削減
2019.12.20	神奈川新聞掲載	神奈川新聞	企画内容 PR
2020.01.13	サーキュラーエコノミーフォーラム		環境省連携によるアマモリ活用 PR
2020.01.18	豊かな体験を通じた学びのフォーラム 2020	横浜吉田中学校	学校連携、企画内容 PR
2020.01.25	ヨコハマ市民まち普請事業 2 次コンテスト		

整備計画案審査会最終案決定(2019.11.29):【一粒万倍】

総評:時間のない中、5 案の提案作品は、どれもデザイン性があり、よく思考されていた。プレゼンテーションに関しては、比較的応答力が不足していると感じられたが、コンセプトがしっかりしている提案は、とても分かりやすい内容であり、質疑の受け答えがしっかりなされていた。「釜利谷ベースキャンプ」は、工学的な知見に基づく前例のない独創的なデザインと空間を大きく使いこなす部分の評価が高く、最も評価された。しかしながら、募集提案内容に沿った、市民参加による工夫、災害対策を考えた屋根のデザイン、コストバランスが最も評価された次点の「一粒万倍」を採用することとした。今後、行政協議のうえ、電気設備、給排水設備の仕様、構造上に配慮したコミュニティ空間の拡充とキッチン廻りの床の仕上げをより精度を高めてもらいたい。また、稼働オーニングの開催時期や実施スキームを具体的に提示する。

審査員:永島太郎、奥井奈都美、堀川壽代、富本龍徳、平野健太郎、桐山 智、今村美幸、高橋のりみ

